

## 平成27年度 学校評価

[各校の重点取組について]

- ①『あいさつ自分から』を合言葉に、進んで挨拶する生徒を育てる。 ②心の通い合う教育活動を展開し、自尊感情を高め豊かな  
 ③基礎・基本の学力定着を図り、それらを活用する能力を育てる。 ④家庭・地域との連携を密にし、地域に信頼される学校を創

### 学校教育に関する重点取組

	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
<b>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる</b> (1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育充実の取組を促進し、自立や社会参加に向けた主体性を育成する	<b>3</b>	<b>3</b>
取組とその成果	課題と改善策	
(1) 学力向上の取組の一環として、授業力の向上にむけ、授業改善アドバイザーから新任教諭以外にもアドバイスを頂いた。また年2回校内研究授業や校外教科会への積極的な参加を心がけた。朝学習や宿題などを通して、家庭学習の習慣化に取り組んだ。 (2) 通常学級において支援を要する生徒が増えて現状を踏まえ、外部講師を呼んで研修会を実施した。また常に学校全体で情報共有し、個に応じた指導法を心がけてきた。	(1) 6月、11月の3年実力テストは良好であったが、2年到達度調査では少し努力が必要であった。今以上に学習規律の確立、家庭学習の習慣化を一層強化し、基礎学力向上と公立高校の新通学区域に対応できる学力を身につけさせていきたい。(宿題、放課後学習、eライブラリの活用) (2) 今後とも特別な支援を必要とする生徒の、小学校での様子や指導した経過を情報交換していきたい。	

	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
<b>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</b> (1) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (3) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する	<b>3</b>	<b>3</b>
取組とその成果	課題と改善策	
(1) 道徳性育成の観点から、本校において「命の尊さとつながりを学ぶ環境教育」をテーマに、環境教育や体験学習(ジャガイモ栽培およびそれを収穫する収穫祭、河川清掃活動、ソーラーカー学習、21世紀の森清掃活動等)を行っていった。 (2) 『時を守り、場を清め、礼を正す』を生活の基本とし、生徒指導上の問題行動には初期対応を素早く行い、保護者にも理解してもらい、共に解決する方法を考えようとしてきた。SNSについて全校生対象を対象に講演会を実施することができた。 (3) 今年度9月に、「進路選択」と題して講演会を開き、キャリア教育を実施することができた。12月には「コミュニケーション力」を高めるという観点から講演会を行い、自他を尊重する心について深めていくことができた。	(1) 「命の尊さとつながりを学ぶ環境教育」をテーマに、環境教育や体験学習を行っているが、この基本理念はこれからも学校教育活動全体に位置づけられていることを常に認識していきたい。 (2) 携帯電話やスマホによるトラブルが増えている現状を考え、指導等を今まで以上にしっかりと取り組んでいきたい。 (3) 「進路選択」、「コミュニケーション力」と題して講演会を実施したが、より身近なものとして、取り組めるようにキャリア教育をより一層進めていきたい。	

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3	3
(1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る			
取組とその成果	課題と改善策		
(1)家庭科教諭や養護教諭が計画を立て、市のヘルスアップ事業や講演会をおこない、健康教育を行っていった。本校屋上庭園において、環境教育、小中連携を通じたジャガイモづくり(種芋を植えるところから、収穫まで)実施し、食について学ぶことができた。 (2)健康な一日の過ごし方を示すことを通じて体力・運動能力の向上を図っていった。	(1)環境教育、小中連携を通じた、ジャガイモづくりは次年度にむけてすでに取り組みが始まっている。ヘルスアップ事業を通じた食育も、今後とも継続していきたい。 (2)深夜1時以降の就寝といういわゆる夜型の生徒が、まだ見られる状況であり、体力面でも心配である。学校だより等による規則正しい生活習慣を保護者にも伝えていきたい。		

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3	3
(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び校内の安全確保を図る (2) 防災教育充実の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る			
取組とその成果	課題と改善策		
(1)職員全体で、校舎内だけではなく、屋上庭園、ベランダ等も意識し、何かあれば校務員さんを中心にそのつど対応してきた。 (2)「1. 17は忘れない」と題して防災特別委員による講演会を全生徒対象に実施した。また年2回の防災訓練を実施し、とっさの行動力、命を守るということについても考えさせた。	(1)校務員さんを中心にそのつど対応しているが、現校舎での学校生活も10年近くにたってきている。修理、補修の必要性も出てくる時期でもある。学校だけではなく、施設課とも連絡を取りながら、今後とも不足の事態が起こらないよう取り組んでいきたい。 (2)『防災マニュアル』の見直しを毎年行い、年度当初に職員全体で確認しあっている。防災訓練等で課題が見つければ対応していきたい。 日常身の周りの整理整頓にも心がけさせていきたい。		

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3	3
(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域資源活用の取組を促進し、開かれた学校園づくりを図る			
取組とその成果	課題と改善策		
(1)現状において、年齢層が二分化してしまうのは致し方ない中、ベテラン層がその都度指導、助言していただくことができた。 (2)コンサート活動、河川清掃活動、東日本大震災に対する募金活動(琴の浦高等学校との連携)、花を植えたプランターを地域へ置くなど、地域に出向き活動を行っていった。	(1)ベテラン層から指導、助言していくことと、若手からも積極的に働きかけていくという両輪をもとに、問題解決に積極的に取り組んで行きたい。 (2)このような活動を朝礼や学活等の時間を中心に、生徒に伝えるとともに考えさせ、今後も、環境改善活動と社会貢献活動を続けたい。また、新しく赴任する教員を含めて全教員でこのような活動を確立し、同じ目標を持って新年度に向かいたい。		

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実	3
取組とその成果	課題と改善策		
(1)環境学習を中心に、屋上庭園における緑化活動をおこない、ラブリバー庄下川(地域清掃活動)に参加出来たり、東日本大震災に対する募金活動(社会貢献)をおこなうことで、自己肯定感の育てていった。 (2)学校が環境学習を中心とした特色ある教育活動を組織的に継続していけるよう、委員会活動、教科、分掌担当者等を体系化していった。	(1)今後とも小中学校において県下唯一のユネスコスクールとしてしっかりと意識し活動していき、社会貢献や自己肯定感を育てていきたい。 (2)学校教育全体で環境教育の位置づけを再構築していったが、持続可能な活動となるような取り組みにはもう少し、全体で共通理解していく必要がある。		

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実	3
取組とその成果	課題と改善策		
(1)(2)研究テーマは「自ら考える場面を設定し、活用・応用できる能力を身につける」と設定した。自ら考える時間を授業の中に入れ込み、発表できるよう努めた。	(1)(2)まだまだ基礎学力の定着に時間がかかるのが現状である。校内においていつでも授業参観等が出来るなど、チームティーチングを見据えた取り組みを積極的に行っていく必要がある。また本校で取り組んでいる環境学習も自ら、活用・応用できる場面として取り組んでいく。		

		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
取組とその成果	課題と改善策		